

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		すだち道伯				公表日	2025年1月5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		ブレイルームと静かに過ごせる相談室と分けています。 十分な広さを確保しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		常に児童の状態等を共有しあえているため、職員の配置数も適切に対応できています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		スロープを取り入れ、段差もない。トイレは車椅子のまま入れる広さと、手すりもあります。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日頃から掃除、整理整頓を心がけています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		クールダウンできる場所であったり、静かに過ごせる場所として使用できるようになっています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		目標を設定し職員に共有をしています。振り返りを行い記録をしています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		結果をまとめ改善すべきところを共有しています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		業務開始前の報告や、月に一度の月例会、必要に応じてミーティング等を行っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		ホームページだけでなく、評価結果を各家庭に配布して業務改善につなげています。	第三者による外部評価を考えていきたいです。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		誰でも受講できる機会があり、受講後は職員全員に周知できるように工夫しています。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		義務化となり、もう一度見直し作成し、公表していきます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		利用時の母子手帳などを持参してもらい、アセスメントを適切に行うようにしています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		モニタリングを行い計画を作成しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		モニタリング、個別支援計画作成後は職員全員に周知し、計画に沿った支援ができるようにまとめたメモをつけています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		必ず周知し目を通しています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		令和6年度報酬改定により、個別支援計画書を見直し、作成しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月基本は担当制にしているが、意見を聞いて取り入れています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		記録として残しているプログラムと照らし合わせたり、新しいプログラムを日頃からチェックしています。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの状況に応じて組み合わせるようにしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		必ず打ち合わせをし、記録などに目を通してもらっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		振り返りや反省点をその日に話し合い、共有するようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の記録として、必ず記録しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行うようにしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		活動プログラムにも取り入れて、行うようにしています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		どの場面でも自分で決められるように接するようにしています。選択肢を提示することもしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が参加するようにしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて関係機関との連携をとっています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		送迎時に情報の共有をしたり、必要に応じて連絡をとれるようにしています。	急な変更にもすぐに対応できるようにしていきたいです。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		情報を共有し、相互理解に努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		移行する場合、支援内容等の情報を提供するようにしています。	必要となった時のために準備をしておきたいです。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		連携を図り、研修をうけています。	スーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けるようにしていきたいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		定期的に交流を行い、活動する機会を作っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に様子を伝えたり、必要に応じて保護者と話し、共通理解を持つようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		研修の機会はまだありませんが、情報提供等は行うようにしています。	研修を受けてペアレントトレーニングを取り入れていけるように考えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学時や契約時に責任者から説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		利用計画書や機会を設けて意向を確認するようにしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		保護者に説明を行ってから同意を得るようにしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		その都度対応し、必要な助言と支援を行うようにしています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会を開催し、親子や家族での活動を取り入れたり、保護者同士の懇親会を開いています。	きょうだい同士で交流する機会を考えていきたいです。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情の対応の体制は整備しています。苦情があった場合は適切に対応するようにしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		おたより等を配布したり、ブログなどで保護者に発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		十分留意しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		写真やイラストの提示やひらがなだけの配布物を作るようにしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域のマックスバリュさんとの交流を事業所で行っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを作成し、保護者に配布して周知しています。定期的に職員で訓練を行うようにしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		非常災害の発生に備え、備蓄の確認や必要な訓練を行うようにしています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		アセスメントや契約時等に必ず確認するようにしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示書に基づいた対応をするようにします。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、定期的に研修や訓練を行うようにしています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		保護者へ配布をし、周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		再発防止に向けて定期的に事例検討を行って職員全員に周知しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修を受ける機会があり、積極的に受けています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束を行わないことを心がけています。		